

ペシャワール会報

No. 17



結婚式のおどり
パキスタン・フンザ地方
(絵・山田純子)

ペシャワール会は1983年9月、中村医師のパキスタンでの医療活動を支援する目的で結成されました。彼の活動を支援するとともに、アジアの人々についての理解を深めていきたいと願っています。

中村 哲医師帰国報告

●第6回総会

難民問題とさまよえる豪華客船日本丸

中村 哲

こんにちは。

今年はやっと体をこわして例年よりも早めに帰っておりました。

この五年間、毎年ほぼ同じような話をしておりましたので、今年は、ソ連軍の撤退であるとかアフガン難民の援助等の問題についてお話してみたいと思います。

難民問題と日本

私の主な仕事はパキスタン北西辺境州のハンセン病コントロール計画の支援にあります。しかし、一九七九年のソ連軍のアフガン介入以来、二百五十万人を超えるアフガン難民が流入、否応なく難民を対象にした医療活動をも展開せざるを得ませんでした。やっと、ことし四月十五日にジュネーブ交渉の妥結により、曲がりなりに

も難民問題に明るい見通しができ、五月十五日よりソ連軍の撤退が始まりました。アフガン問題は、新聞紙面をにぎわし、この

問題の論評が活発に行われています。しかし、報道のあり方、日本国民の難民問題に対する対応のあり方、折から叫ばれる「国際化」などについてみると、現地にかかわりを持ち続けてきた私には、何か隔靴搔痒の感を免れません。

非現実的プランの横行

元来、北西辺境州とアフガニスタンは、言語、民族とも一体です。アフガニスタンと北西辺境州の多数民族であるパシュトゥン族は総勢千五百万人と推定されますが、ちょうど半分ずつが国境線に分断されて住んでいます。当然、往来は自由です。特に

「部族自治区」として国境地帯に残された部分は、パキスタン政府も慣習法による自治にまかせ、住民の「越境権」を認めて、よほどのことがない限り干渉しません。こうして容易に「難民」の流入する下地ができあがっていたのです。当然パシュトゥン族の南側の都、パキスタンのペシャワールは難民流入とともに、アフガニスタンの内戦指導の根拠地になってきました。



なかむら・てつ 昭和21年福岡市生まれ。福岡高を経て48年九州大学医学部卒。国内の病院に勤務したあと、パキスタンでの医療活動を志し、リバプールの熱帯医学部に留学、59年5月、ペシャワール・ミッション・ホスピタルに家族を伴って赴任。ハンセン病治療を中心にすでに五年間、現地で活動している。現在八歳、四歳、一歳の三人の子供がいる。

私が極めて不審に思うのは、ソ連軍の撤退—アフガニスタン難民の帰還という図式が直ちに描かれたことです。事情を知らぬ者が言うならまだしも、十年以上も腰をすえて「難民の世話」をしてきたUNHCR（国連難民高等弁務官）が、現地の人々が笑うような非現実的なプランを出し、各国政府の支援態勢がそれに振り回されました。援助額一、二を争う日本も例外ではありません。



▶難民キャンプで子どもを診る

他国にとっては「対岸の火事」

たとえば、難民から直ちにふるさとの農村に帰れるような状況ではありません。それらの農村はただでさえ、荒涼たる谷あいにある上に、所によつては数メートルおきにロケットやミサイルの砲弾が突き刺さり、埋設された地雷は数知れません。全滅して村そのものが廃虚と化しているところもあります。また、各国政府の難民援助金も、末端の難民まで、行き渡っていないのが現状のようです。

これらのことについて、関係者の言い分はあるでしょうが、尽きるころは、国連を含めて諸外国にとつて、アフガン難民問題は「対岸の火事」であつたということ。極言すれば、肝心の難民よりも、それぞれの事業、ビジネスや、援助団体のアイデンティティーの方が重要だつたといえます。ジャーナリストの取材もごく一部を除けばそうでした。耳目を集めるニュースの商品性のみが追求され、従軍戦記ものばかりが出回りました。その陰に隠れた多くの人々の苦悩に関心が寄せられたとは思えないの



「人間」置き去りの援助

です。

肝心の「人間」が置き去りにされた援助によつて、アフガニスタンはまるで、大國のおもちゃのようになり、ずたずたに引き裂かれたと思えます。すべてとは言いませんが、多くの欧米のボランティア団体の行

これらの偽善的行為を、私はアフガンやパキスタンの同胞とともに忘れないでしょう。日本の対応は、金を出すことだけでいい。金を出すが決して悪いことではありません。しかし、その金がいかに使われたかを知るべきでした。日本にとっては小遣い程度の金であっても、額によっては一国の命運を左右し得るのです。

いまより豪華客船

この五年間ほどで、日本は確かに変わりました。「国際化」が声高に叫ばれるようになりました。つい最近まで、われわれが政府に対して突きつけていた民間援助と国際交流の重視を、逆に突きつき返される状況です。しかし残念ながら、官民ともにまだ成熟した「国際的な意識」を持っていないと思いません。これは、ペシャワールのような片田舎から時々帰って驚く浦島太郎の感想ですが、アフガン難民の状況を通して見る限り、豪華客船の日本丸は、内部が華美になるばかりで、行きつく先もなく、さまよっているように見えます。

批判を覚悟で言えば、日本が抱く大抵の

悩みは全地球的規模からすればぜいたくな悩みです。日本は金をもてあまして、ふらふらしているのに、日本列島の住民は、相変わらずゆとりなく、密室の客船の中でガサガサしたり、逆に虚無的になったりしています。危機的テーマであるはずの「国際化」も、ビジネスやお祭りに転化しています。楽しい国際交流が悪いとは言いません。私が叫びたいのは、「国際化」もまた、自国向けのショーで終わるといふ危険な傾向があることです。

何かを捨てよう

乱痴気騒ぎ集団から最も厳格な思想集団に至るまで、相手のことを二の次にして、自分の方が大切だという点で一致しています。堅苦しいことは言いたくありませんが、他人様を助けることは何かを捨てることです。与えるとは自分の何かを失うことです。援助の原理は極めて簡明なことです。相手のために徹底的に尽くすことです。これらを踏まえた援助や国際化を私は望みます。

〔本文は中村先生の報告要旨をまとめた「西日本新聞」(一九八八・七・一五)による〕

中村先生の国内活動(一九八八年)

- 五月一四日 中村先生帰国
- 六月七〜九日 中村先生、Dr. シャワリ 長崎、鹿児島徳州会病院へ
- 六月一〇日 Dr. シャワリ パキスタンへ帰国
- 六月二五日 熊本ペシャワール会例会出席
- 七月 一日 福岡女学院中・短大チャペル講演
- 七月六〜七日 西南中学・高校・大学チャペル講演
- 七月 七日 福岡鶴城ライオンズクラブ例会出席
- 七月 八日 外務省訪問
- 七月 九日 ペシャワール会第6回総会
- 七月一二日 北九州アジアを考える会にて報告会
- 七月一四〜二三日 中村先生関西へ(関西JOCs 関係報告会)
- 七月二四日 西南学院教会チャペル講演
- 七月二七日 若松ロータリークラブ
- 七月三〇日 佐賀バプテスト教会講演
- 八月二〜四日 医学生連盟サマースタディ参加(浜松医科大学)
- 八月 五日 東南ロータリークラブ例会
- 八月 六日 石風社レクチャー(中村先生：アフガン難民について語る)
- 八月 七日 香住ヶ丘教会
- 八月一九日 ソロプチミスト北九州西例会出席
- 八月二六日〜二七日 キリスト教医科連盟講演
- 九月 七日 中村先生ペシャワールへ

● 第6回総会

一九八八年七月九日福岡日生ホール

二〇〇名以上の参加で
熱気にあふれる

去る七月九日、福岡市天神の日生ホールでペシャワール会の年次総会と中村医師帰国報告会が開かれた。事前に新聞などでも紹介されたためか、当日は二百名以上の人が集り、会場は終始熱気に包まれた。

総会では、会報十六号に掲載された一九八七年度事業報告が承認され、次いで、今年度も中村医師の活動に対する支援と、国内における広報活動に力を注ぐことが確認された。とりわけ、これからは現地に多くの働き人を養成するための「教育基金」設立に向け、会員の皆様に一層のご協力をお願いすることになった。「教育基金」の具体的なプランについては次頁にある通り。一時肝臓を悪くされて心配されていた中

村医師は、幸いにも帰国後健康を回復し、各地で精力的に講演を行ったり、新聞などの依頼原稿やこの秋出版予定の本の執筆などで多忙でした。帰国報告会では、五月からソ連軍撤退が始まり新しい展開がみられるアフガニスタン内戦の情勢と、それにともなうペシャワールでのアフガニスタン難民と国際援助団体の動きについて紹介され、流動する状況の中で黙々と、しかし将来を見据えながらハンセン病やてんかんの診療活動を続けている様子が中村医師から報告された。そして、「ペシャワールから見た今の日本は、宝を積みすぎてその重みで今にも沈没しそうな船のようだ。金満船日本丸が生き延びるには、宝を貧しい国々に提供することだ。」と最後に熱を込めて語られた時、会場はピーンと張りつめた雰囲気になった。

中村医師の報告の前には、ペシャワール会事務局員の福島、渡辺両氏から、ペシャワール訪問時の中村医師の活動について多くのスライドを用いて語られ、中村医師の活動およびご家族の生活振りなどが立体的に紹介された。

今年の総会も熱気にあふれて終えたが、

これまでの五年間のペシャワール会の活動を振り返ると、全くの素人集団が手探りで良くここまで活動をやったものだなどの感慨を抱くとともに、この活動を通してわれわれ自身がアジアと世界全体および日本の現実に目が開かれ、さらに自分の足下で起こっていることがらに気付かされ自らのこれからの歩みに指針を与えられたことが感謝される。会員の皆様には、これまでのご協力に感謝申し上げますとともに、今後とも末長くご支援下さいますようお願い申し上げます。

なお、中村医師ご一家は九月九日パキスタンに向かわれました。ご家族のご健康を祈ります。

また、ペシャワール会事務局から、十月には看護婦の安部さん、十一月には臨床検査技師の松尾さんが、さらに来年四月には医師の石松さんがペシャワールを訪問し医療協力を行う予定です。覚えてお祈り下さい。

(事務局長・佐藤雄二)

ペシャワール・医療教育基金会計報告（1987年度）

1. はじめに

中村哲医師は、現地での医療活動を行うと同時に、将来現地の人々の手でこの仕事が続けられるようにとの配慮から、彼らの医療教育にも力を注いでいます。そのために、ペシャワール会からの支援費の一部（主として年末年始募金）をこのたび「ペシャワール・医療教育基金」として発足させました。

2. 奨学資金

1) 給付対象	2) 給付額
医学生 3	医学生 1,000 ルピー/月 (7,000円/月)
看護学生 1	看護学生 500 " (3,500円/月)
患者子弟 8	高等学校又は専門学校 2,500 ルピー/年 (17,500円/年)
語学校(スタッフ) 8	子弟の教育(小学校) 500 ルピー/年 (3,500円/年)
その他の技術習得 5	技術習得 500~800 ルピー/月 (3,500~5,000円/月)
合計 32 名	語学校授業料 500~600 ルピー/3月 (3,500~4,200円/3月)
	その他負担しえぬ入学金、海外留学時の渡航費 (1ルピー=7円)

以上、1987年4月より1988年3月まで、主として月額で給付された。その他の技術習得とは、病棟での助手および理学療法を手伝った者を含む。

3. 1987年度・支出

奨学金費用	148,750	ルピー
留学援助	16,000	ルピー
総計	164,750	ルピー (1,186,190円)

4. 留学生招へい援助

1988年度に医師2名を予定している。この場合、渡航費のみを本基金より支給することになっている。アフガン人1名は4月上旬より6月上旬までの約2ヵ月間、福岡徳州会病院にて医師研修を受けた。

5. その他

給付対象となる者については、次のような規定を設ける。

- 1) この基金は、ペシャワール会により支給される。
- 2) この基金は、有能な医療従事者を養成し、また、彼らおよび彼らの子弟の教育を支援することで医療スタッフ、患者を援助することを目的とする。
- 3) 次の者が支援対象となる。
 - A. より深い勉強が必要な医療スタッフ
 - B. 聡明で、職業訓練を受ける意欲のあるハンセン病患者
 - C. 上記のスタッフおよび患者の子弟
 - D. 将来医師活動に協力的であり、かつ、経済的な問題のために勉強を続けることが困難である医学生。
- 4) 申請者は、申請書に必要事項を記入し、本基金の審査会より認可を受ける必要がある。
- 5) 認可された場合、申請者は、ペシャワール在住の責任者に領収書を渡さねばならない。
- 6) 申請書の写しは、ペシャワール会に送付される。

1988年8月 ペシャワール会事務局

会 長 問田直幹
 事 務 局 長 佐藤雄二
 事務局担当者 福島裕助

●出席者の感想(会員)——*総会会場アンケートより
これまで以上のご支援をお願いします

貴重な示唆でした。

(太宰府市 大石正人)

*多勢の方々と一緒に報告を開けたことを嬉しく思いました。

(事務局の方へ)中村哲先生の「健康」

を十分支えられるようにお願いします。

(福岡市 栗本高幸)

*ペシャワールから見た、中村先生の目から見た「日本の姿」「日本の海外援助」の話聞いて深い印象を受けました。

(福岡市 最上義英)

*これだけの人が多く集まるとは思いませんでした。

(福岡市 浅田 勲)

*アフガン難民の医療に対してもっと関心をもたねばいけないと、つくづく思いました。

(福岡市 熊本サタ)

*大変良い有意義な会でした。私は西南学院中学校で、中村哲君を教えました。哲君の健康と御家族の平安を祈ります。

(福岡市 中江健三)

*中村先生の現地状況、ペシャワール・パキスタンのスライドを見せてもらって、大変良かった。

(佐賀県唐津市 水田憲夫)

*多数御出席で心強く思いました。

(福岡市 波多江賢次)

*清々しい思いを深く致しました。こんなに沢山の人が善意を持ち寄り、大切なものを支えて居ると肌で感じ、素直に素晴らしく思いました。

(福岡県糸島郡 荒川利夫)

*毎年ペシャワール会を楽しみに出席しております。先生・御家族の皆様、大変と思いますが頑張ってください。お体を案じております。

(福岡市 高松明子)

*今日は現地に行かれた福島さんから見ただペシャワール、渡辺さんから見たペシャワールを聞かせて頂き、とても多角的な現地を知る事ができ、良かったと思います。参加人数が多く、アピールの大切さを感じました。昨日、やっと北九州の会員名が届きました。お願いしてちょうど一年目です。事務局のお仕事は大変と思っておりますが、十二日の集会に間に合わず、残念に思っております。来年は北九州でもっと会員にアピールできる様にしたいと考えております。ありがとうございます。ありがとうございました。(北九州市 松室淑子)

(福岡市 鈴木繁美)

*スライドや中村先生から直接お話を聞きする事ができて、嬉しかったです。これから、短期インドネシアに行く機会がありますが、良きアドバイスを頂きたいと思っております。(福岡市 鈴木繁美)

*よほどんだ様な地域の小さな社会で生きております。私にはこの様な会は、別世界のような、さわやかなほのぼのとしたものでした。良い会に入会させて頂いたと思っております。

(福岡県太宰府市 正木揚子)

*貴重な活動報告(中村先生、スタッフ



▶難民キャンプの子供たち

*中村先生のお話を、と思っておりますが、チャンスに恵まれ感激です。いろんな人に声をかければと残念でした。私がこの会に入会したのは、「西日本新聞」夕刊の中村先生の連載記事を読んだことです。

(福岡市 真砂友子)

*中村先生のお話を伺えて感謝。良いお

働き今後も御健康に恵まれ御活躍下さいますようお祈りします。

(福岡市 鶴崎方子)

*見せかけではない、合理的な海外援助を痛感しました。金だけに終始しない有機的な交流への参加にあらためて啓発されました。

(福岡市 中村康利)

*中村先生のお話を伺って直接病人の治療にあたられる人の熱いさげびを聞ききました。世の矛盾に怒りを感じました。

(福岡市 山口タメ子)

*この会に来て良かったと思えました。前むきに歩いていらつしやるので、新しい世界が生まれると信じました。

(太宰府市 高島陽子)

*参加者に若者が少なかったことが残念だった。

(早良区西新 石坂誠吾)

*初めての出席でしたので、大変役に立ちました。これからは出来るかぎり出席していきたいと思えます。これからも大変なことが色々あると思いますが、がんばってください。

(福岡市 宮崎宏)

*これからの国際交流や援助の意味など、

フ)を承り頭の下がる思いが致します。益々のご活躍をお祈り致します。

(粕屋郡 庄司智子)

*中村先生の元氣そうな姿を拝見して安心しました。患者の数も多くなられて増々の御活躍を祈ります。まずは健康第一で頑張ってください。(粕屋郡 原山輝子)

*現地の様子が、中村先生とお二人のスタイルでわかりました。お手伝いできることがありましたら、御協力させていただきますと思います。御苦勞様です。どうぞがんばってください。本日も何かと準備大変だったと思います。ありがとうございます。(福岡県春日市 坂本一恵)

*年々参加される方が少しずつ増えているようで、喜んでいきます。中村先生のお話、いつものこと乍ら心に痛みを覚ええます。もっと何かお手伝いをしなければと思っております。本年三月末で退職いたしましたので、お手伝い出来る事がありましたら声をかけて下さい。(福岡県 廣門繁子)

*沢山の方が参加されて盛会だったと思います。難しい問題をかかえている所での御活躍大変だと思えます。スライドも楽しく多くの事を教えて頂きまして感謝でした。(福岡県春日市 山木道子)

*中村先生の言葉を通じて、アフガンの難民の状況、又世界各国の援助の状況がよくわかりました。(福岡市 豊島トヨ子)

*援助の難しさを感じました。ペシャワール会から本当の意味の援助をしていく事を進めて頂きたいと思えます。大変なお仕事ですが、頑張ってください。よろしくお願い致します。(福岡市 菱山裕子)

*大勢の人で驚きました。皆さん強い味方になって下さるよう。(上田和子)

*現地報告を聞いて先生はじめ御家族の御苦勞を知り先生の御健康と御平安を祈るや切であります。国際化の問題、海外援助の問題について日本に対し貴重なヒントを与えていただきありがとうございました。(福岡市 村山茂)

*国際交流、援助、医療の原点を深く考えさせられました。(福岡市 疋田浩四郎)

*今回は多くの方のお集りを頂き感謝しました。先生の御健康を祈ります。(福岡市 森氏)

*多数の参加が得られて良かったと思えます。(福岡市 宮崎信義)

*事務局の皆様が意欲的に楽しみなながら取り組んでいる姿をみて安心しました。中村先生同様に大切な仕事です。息長く頑張ってください。(福岡市 伊原幹治)

*日本の病める姿を中村先生の視座から見せていただきました。『真の国際化』—本当に痛くてもしつかり見すえて自分、周りの人へと、たしかな目・ししかるべき動き』を上げねばと思っております。(福岡市 山本淑子)

●出席者の感想(非会員) — 総会会場アンケートより
これからご支援をお願いします

*非常に興味深く、現実的なお話で、外人による、海外での医療活動を知るのに大変参考になるものでした。どのような活動が求められ且つ必要なのかということを変更して考えることができました。(北九州市 O男)

*参加者が多く驚いた。(福岡市 G男)

*中村Drの「患者さんへの温いまなざし」(heroicなものとは無縁なもの!)「冷静に事実を受けとる姿勢」「緩徐ではあるが着実な情熱」に触れることが出来て大変勉強になりました。(福岡市 W男)

*日本人の問題(考え方の) ○援助の方法についての考え方 ○難民の実体を犬養道子やその他の方々の本からでもわからなかった事が分りました。是非、中村先生のお働きの援助がもっと進むようにもっともっと御活躍下さい。今日入会して帰ります。(福岡県筑紫野市 Y女)



▶手術中の中村・シャワリ両ドクター

*援助という大それたこと以上に日本の豊かさの中におかれた心の貧しさを痛感させられました。個人個人がこの認識を持つことを考えます。(福岡市 M女)

*中村先生のことは新聞で幾度も目にしましたが、今回直にお話を聞きたいへん感銘をうけました。(福岡市 F女)

*新聞で偶然目に止った記事を読んで、今自分自身が、これで良いのかと言う疑問を少しでも、客観的に考えられないかと思ひ、参加させて頂いたのですが、中村先生が、とても冷静に使命感と言うよりは、現実を見すえて働いていらつしや

る姿勢に感銘を受けました。技術を持たない自分自身に何か出来ないかと考える良い機会になりました。(福岡市 H女)

*私は来月早々にチボリ里親の会で現地訪問致します。お話の中に何か参考になる事があればと思い参加しました。

(筑紫野市 F女)

*非常によい企画でした。二部に分かれていたのが良い。スライドと先生の二本立てが良い。無理のないようにがんばって下さい。未長く続きますように祈ります。日本の状況が、なんとか変わってほしいです。そこにいる人に仕えることのむずかしさを思います。損をしていくことが仕えることということが分かりました。

(福岡市 T男)

*ペシャワールでの中村先生の医療活動の様子をくわしく知ることができました。きびしい国の情勢の中、大変だと思いま

す。日本はお金でなく、やはり、自らの援助が必要だと思いました。私も何かお役に立てればやりたいと思います。

(春日市 O女)

*自分の将来の方向性に大きな示唆を得た。

(久留米市 T男)

*中村先生のお話と、他の方々のお話で、全く知らない世界について知ることができました。

(北九州市 O男)

*自分自身も、ペシャワールをはじめ、アジア発展途上国の国々を多面的に知りたと思います。これからの働きが現地の人々の自給自立のため、現地の人材育成のためにも役に立ちますように。

(福岡市 N男)

*地域医療に実際に従事されている方のお話を聞き、報道されているものと現実のギャップの大きさを知りました。もう少し外向きの活動をされたらと思う。

(北九州市 S男)

*現在医学生で、海外医療援助に興味をもっていたが、実際の活動を見るとなかなかきびしいものがあると思った。

(北九州市 I男)

*現地で活動している者しか分かることの出来ないこと一端でも知ることが出来る感謝しています。(福岡市 H男)

*PRを拡大して下さい。

(北九州市 Y男)

*この様な会のあることをはじめて知る

機会がありまして喜んでおります。中村先生にお会いしてこれからの御活躍をお祈りします。でもお一人では大変だということを感じました。中村先生のお体が(健康が)維持できます様お祈りいたします。

(福岡県宗像市 A女)

*広くアジアをみつめるための勉強になりました。長く続けていく事は大変だと思いますが、これからはがんばって下さい。

(福岡県杵屋郡 H女)

*大変有意義で大切な問題をいろいろ示唆されました。根強い活動、楽しくやるということすばらしいと思います。現地の人の中でライや結核が、解決の途にくままでこの輪がひろがることを祈ります。

(鹿児島市 T男)

*スライドによる紹介は大変よかったです。

(福岡市 M女)

*地道な活動で頭が下がります。私にも何かできることがあればと思います。

(福岡市 H女)

*日本という国が、年々ためこみだけの国になってゆき日本列島がひとつのさまよえる豪華客船のようだという指摘を心に残しておきます。人を助けることは自分の何かをなくすこと。いろいろ老えてゆきます。直接援助の届くやり方で。

(福岡県杵屋郡 I女)

*大変勉強になりました。先生のお話が直接聞けて、光栄でした。がんばって下

(福岡県杵屋郡 I女)

さい。(福岡市 K女)

*思ったよりも参加者が多かったし、年齢層も幅広いので少々びっくりしました。

(福岡市 M女)

*今年末か来年初に医師か看護婦の研修(見学)の為の派遣を考えてますので、具体的事項について御連絡下さい。

(K・長崎北徳州会病院)

*国際化と言われる中で、世界のサラ金化している豪華客船日本の姿について考えさせられた。これからの日本はどうすればいいのか、考えこんでしまった。

(北九州市 O)

*中村さんの誠実な人柄にふれ、ついに、今の日本人のごう慢さを思い知った気がする。

(福岡市 M)

*この会があることも知らず皆さんの温かい援助を目のあたりにみまして感心致しました。昨日、「毎日新聞」をよみまして参加致しました。一人の善意の医療献身に皆の輪がひろがることを切望致します。まだ何もわかりませんが事務局の方々の活躍を心からお祈り致します。

(福岡市 F女)

*スライドではじめパキスタンの状況説明がありその後中村先生のお話して国際的なアフガン難民の援助状況が良く理解できました。

(福岡市 T女)

*豊かな日本で、"本当の豊かさ"とは何かを考えました。(福岡市 S女)



▶難民キャンプのバザール

●ネパール王国の国立カンティ小児病院の医療現場から

一台の人工呼吸機より

一〇、〇〇〇個の湯タンポを

ベシャワール会事務局 辻 純子

ネパール王国は、長いヒマラヤ山脈の中央部を占める、亜熱帯地方にある高山国で、世界最高のエベレスト山から、インド国境の亜熱帯地方、更に北部の乾燥砂漠地方まである多彩な自然環境の国です。一九六〇年頃まで鎖国政策をとっていましたが、現在は観光国への脱皮をはかっています。しかし、カトマンドウ市を除いて経済の発展は遅れ、アジアの最貧国のひとつです。辻純子さんは、ベシャワール会の事務局で活動をしていましたが、一九八七年八月より海外青年協力隊の一員として、この小児病院に赴任しました。これは中村先生と同じ南アジアの医療現場のレポートです。

“最高水準”の“無償援助”

カンティ小児病院は、一九七〇年ネパール国立の小児病院として開業されました。当初は一九六三年ソビエトの援助で大人用の病院として建てられたものです。

小児病院となつてからは、日本から海外青年協力隊の看護隊員が派遣され、約十年にわたって日本セクションを運営しモデル病棟を作っていました。しかし、一九八〇年頃に、生活環境が劣悪であり、隊員の活動が完全に労働力としての扱いしか受けず、またネパール側に協力し学ぼうという姿勢

が見られないということを理由に、ネパールへの隊員派遣が中止されました。もつと他に理由があつたと聞きますが、明らかではありません。

その後、一九八六年に、小児病院といつても小児科に必要な機材が何も無いということで、日本から二億八千万円もの機材が、ここカンティ小児病院に無償援助の形で設



▶カンティ小児病院にてJICAの隊員とともに左が辻さん

置されました。外科手術に必要なものから、酸素プラント、保育器、心電図モニター、インファウンドウォーマー、インジェクションポンプまで当時の日本では最高水準のものが送られて来ました。もちろん、それに伴うデイスポーザル製品も含めて。

日本のする仕事に抜かりはありません。ちゃんと事前に調査団も送っているし、ネパール側と話し合いの結果選ばれたものばかりです。二年間の保証期間もついているし、取り扱い証明書も機材ひとつひとつに英文でついています。二年以内に壊れたものは日本側が無償で修理するが、その後の機材の故障については病院側が負担すること、デイスポーザル製品は病院が買うという契約書も取り交されています。機材の設置にあたっては、専門家として日本の医師二名が一カ月半派遣されて指導を行いました。

援助による混乱

しかし、病院の管理・運営をするのはネパール人自身であるという最も基本的なこ

とを忘れていたのではなかったでしょうか。日本から高価な機材が送られてきて、それぞれの場所に設置されました。その機械はその部所のインチャージが一応責任を持つこととされました。さあ、機械を渡された責任者は大変です。もし壊れようものなら、まして失くそうものなら自分の首が切られるほどの責任です。みな、倉庫に入れ



▲街の広場でパフォーマンクス

込んで誰にも使わせまいと努力する結果になつてしまいました。それでも使わなければ意味がないと使いだした機械は、電気事情の悪いこの国のこと、しょっちゅう停電し、電圧も変動し、ICボードを利用した機械はつぎつぎと壊れていきました。一度壊れるとネパールでは修理できません。保証期間は、日本が修理してくれるとはいったものの、どういうルートでそれを依頼したらいいのか誰も知らないし、面倒で誰もそれをしたがりません。いつのまにか放置され、ますますひどい状態になりました。

機械に伴うデイスポーザル製品にしても、インド製デイスポーザル製品でも使えるよう機械を送ってくれば現地で購入しますが、日本製でもその会社のものしか使えません。これもなくなつては大変と管理者がなかなか倉庫から出してくれません。期限切れ間近になつて慌てて使いだすという有様です。日本に注文して病院に届くまで半年はかかります。どの製品の消耗が早く、一カ月毎にどの程度注文しなければならぬのかという物品管理の基礎的なことが、この国の人々にはできないのです。

機材と共に派遣された看護隊員は、看護指導どころでなく、機材の管理に多くの時間と労力を使わざるを得ない状況におかれています。まだ倉庫に眠っている機材は半分以上です。何もなかったところにこれだけの機材が入れば、電気代も増えるし、管理費もかかる。それでなくても予算のない病院では、運営が苦しくなるのは目に見えているのです。

機材をめぐる争い

一番悲惨なのは、送られてきた機材を巡っての争いです。あのセクションにはこれだけの機材がある。しかし、自分のところにはない。これが嫉みになり、協力ということは一切生まれません。さらに一度手にした機材は、他のセクションでどんなに必要とされようが、絶対貸したりしません。機材を巡っての院内の争いが、ますますひどくなってきました。使い方も解らない機材を持つていてだけで、どうしようとするのかと言いたいのですが、それは、かれらには関係ないのです。自分の担当の時代に、

どれだけの機材を増やしたかが、その人の評価につながる世界なのです。

これでは、協力部員のグチになってしまいますから、最近あった一例を紹介しましょう。内科病棟には、冬になると呼吸器感染症の患者がふえます。膿胸、気胸の子供がいた場合、胸腔穿刺が行われ、持続吸引が必要となります。日本から送られた機材の一つに、低圧持続吸引器も十台含まれていますが、それを使おうという気さえ見られませんでした。

担当医師に、なぜ使わないのか聞いてみたところ、「こんな機械は、ネパールではここカンティ小児病院しかないのです、この方法を知っていても他の病院では、なんの役にも立たないのだ」ということです。つまり、カンティ小児病院は、ネパール国内の小児科の実習病院の役割も兼ねているので、医学生に教える場合、どこでも出来る方法が重要なのであって、ほとんど電気もないようなところで働く医師達には、高度医療は意味の無いものだという理由です。そして、今も水封式のドレナージが行われているのです。

段階を踏んだ援助の必要性

このような現状を見てほしいし、知ってほしい。援助する側にもそれなりの事情があり、ネパールの偉い人達は、一番新しいものを欲しがらるでしょう。しかし、本当に援助を考えているのなら、段階を踏んだ方法が取られるべきではないでしょうか。

脱水症で多くの子供達が死んでいくこの世界で、日本の医療をそのままもってきたような援助で何になるのでしょうか。こう思わずにはいられません。もつと、もつと必要な物があるはず。人口呼吸機一台よりも、一〇、〇〇〇個の湯タンポがほしい！海外援助が何かと話題になるこの頃です。単に建物を建てた、物を与えた、お金を使ったという援助でなく、その場の状況を、その国の状況を良く見て、その国の、その土地の人々の真に力となる援助を、望まずにはいられません。

Administration, Man Power, Maintenance この三つが、開発途上国の問題のよりに思われます。

行
っ
て
来
ま
す
!

安部美智子さんが 中村先生を手伝いに ペシャワールへ

この会報が会員の皆様のお手元に届く頃、事務局の安部美智子嬢（看護婦、年齢は特に秘す）も福岡を出発してペシャワールのミッションホスピタルに到着しています。



▶出発前の歓送会で子猫と遊ぶ安部さん

現地で中村先生のお手伝いをするんだと張り切っている安部さんに話を聞きました。

Qなぜペシャワールに？

A看護学生の時に、外国（ネパールなど）

の貧しい人々のために働きたいと思ってい

たんです。社会人になっていつしかその夢

を忘れかけていたんですが、三年前ふとし

たきっかけてペシャワール会に足を踏み入

れて（実は事務局のメンバーと花火大会に

行って……）そこで中村先生のことを知っ

たんです。私がやりたかったことを実際に

していらっしゃる中村先生の人柄に魅かれ、

微力ながら何かお手伝いができないかなと

思っただけです。

Qどのくらい滞在するつもりですか。

A最低三カ月、希望としては半年ぐらいで

すね。

Qフリータイムには何をされるつもりですか。

Aペシャワールの人達と日本の文化（お茶、

お花）を通じて交流できたらいいなと考え

ています。事務局の人達からはパキスタン

料理をマスターしてこいと言われてるので

大変です。大丈夫かしらん？

Qそれでは何か一言。

A私は今、卵の状態なので、ペシャワール

に行くことによってヒヨコに孵化したいと思えます。そして中村先生、先生の御家族、会員の皆様、私自身の健康を願っています。では行って来ます。

ご活躍を祈ります。行ってらっしゃい！

●シャワリ・ドクターからの手紙

皆様お元気のことと思います。仕事、

生活、また様々のことが滞りなくうま

くいつていることだと思います。

いつも親切にしていたいただいた皆様のこと

を思い出しているところです。以前、皆様に

手紙を送ったのですが、届いているかどうか

心配ですので、この手紙をペシャワール

会の沼沢氏に託しました。

日本の素敵な友人を持つことができました。

その一人ひとりとのつながりを続けていく

ことができましたら幸いです。

もう一度申し上げます。いつまでも

成功と健康に御留意下さることを希望

致します。

ドクター シャワリ

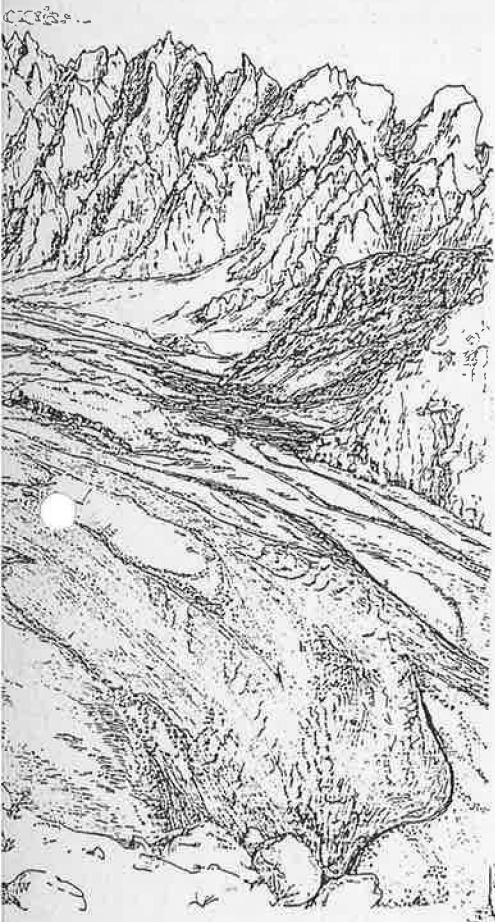
ヒンデイ村

絵・山田純子 文・山田俊一
山田純子

表紙が今までとがらりと変わって驚かれた方も多いと思います。今号からしばらくの間、金沢市に在住の山田純子さんのパキスタン・フンザ地方・ヒンデイ村の日常を描いた絵を使わせていただくことになりました。山田純子・俊一夫妻は画家で、八年ほどのインド・パキスタンでの放浪・生活のあと昨年帰国されましたが、ヒンデイ村に在住の折、縁あって福岡登高会や中村哲先生とのつきあいが始まり、今年の夏には、福岡でも夫妻の個展が開かれました。その際、中村先生の「ゲリラの勇ましい戦闘場面ばかりでなく、パキスタンのごく普通の人々の日常生活を知って欲しい」という希望もあり、山田夫妻の絵を使わせていただくことになったわけです。ご快活いただいた山田夫妻には深く感謝いたします。

レンズでもかけて見るような青い空、その広大な青さに消え入りそうな雲。高台に登ると、八千メートル近くの白い山も小さく見える。

左手奥がバスー氷河、中央の山間の奥がバトウラ氷河、右手の針峰山のはるか後方に、パミール高原があると聞かされた。川は、中央の中国国境方面とバトウラ氷河から、右手の針峰山のシムシェル河から、左手の大きな扇状地の中央を走るバスー氷河からの四つの川が合流している。氷河溶けの頃ともなると、大人の体程もある氷塊を流す程、川は増水して暴れる。三十数年前



冬場の食料 干し野菜を屋根の上で作る



ヒンディ村全景



糸をつむぐ

に川の流れが変わってから、毎年三、四メートルずつ畑が削られる。村は、昔の半分になってしまったという。扇状地は広がっているが、村と畑は正面の岩山の麓に小さくあるだけで、あとは、領有の石組があつても石ばかり。家畜の食う刺の低木と雑草しか生えていない。

右手、道添いに行くと、この川に掛かった足を踏みはずしそうな、まるで梯子を横にしたような長いつり橋がある。それを渡つて、村人はそこにある畑へ毎日通う。左手を登つて山道の峠を越えると、塩湖を抱えた隣村にでる。

この高台にいても、ゴーゴーと川の音は響く。氷河下ろしの風が冷たい。日中、人のいないこの晴天下で、恐ろしい程の静けさが染みてくる。人間であることを忘れてしまひそうだ。

●中村先生の本が12月に出版されます

ペシヤワールにて

—癡(ばか)としてアフガン難民—

中村哲著

石風社刊 定価一五〇〇円

ペシヤワールについて語ることは、人間と世界について総てを語ることであり、と言つても誇張ではない。貧困、富の格差、政治の不安定、宗教対立、麻薬、戦争、難民、近代化による伝統社会の破壊、およそ全ゆる発展途上国の抱える悩みが集中しているからである。悩みばかりではない。我々が忘れ去った人情と、むきだしの人間と神に触れることができる。我々日本人が当然と考えやすい国家や民族の殻を突き破る、露骨な人間の生き様にも直面する。

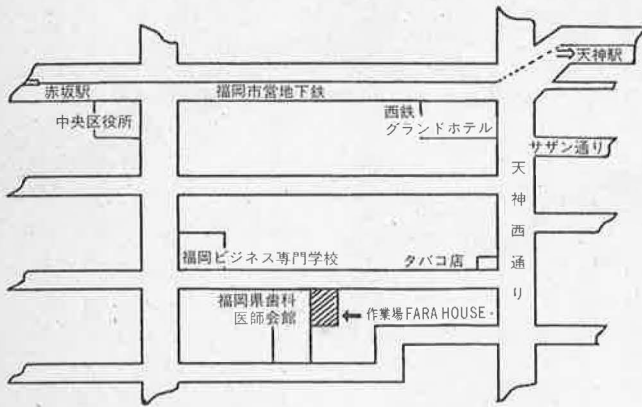
〔著書「あとがき」より〕

〔注文方法〕御注文はペシヤワール会宛（送料二五〇円）か最寄りの書店にお願いします。書店に注文される場合には、「石風社刊・地方小出版流通センター扱」とお申し添え下さい。

〔事務局作業場のご案内〕

会員の方のご厚意により、事務局の作業場を左記の処に移しました。場所は天神からも近い大名一丁目一二一四五・福岡県歯科医師会館の隣のビル（FARA HOUSE）です。毎週水曜日夜六時半〜九時半まで作業をしておりますので、気楽にご参加下さい。

☎〇九二（七八一）七六八二



会 則

- ① 本会の名称をペシヤワール会とする。
- ② 本会は、JOCSSの「共に生きる」という理想に賛同し、中村哲医師のパキスタン北西辺境州での医療活動を支援し、必要な情宣・募金活動を行うことを目的とする。
- ③ 本会は、派遣母体であるJOCSSを通して必要な協力を行うが、思想・信条にとらわれず、「支えあい」の精神で一致して会を運営する。
- ④ 会員はそれぞれ可能な範囲で、自ら創意工夫して自由なやり方で支援活動を行う。
- ⑤ 会員は一口年額三、〇〇〇円、学生会員一口一、〇〇〇円、特別会員一口一〇、〇〇〇円以上の年会費を納入する。
- ⑥ 本会は会誌の発行を、会員は会の拡大に努める。
- ⑦ 本会は総会に於て若干名の運営委員を選任し会の運営を行う。
- ⑧ 毎年一回総会を開き、会計報告および会の運営について審議する。
- ⑨ 本会の事務局を福岡YMCA（〒八一〇福岡市中央区天神一丁目10の24福岡三和ビル4F ☎七八一七四一〇）内におく。

発行所 ●ペシヤワール会 〒810 福岡市中央区天神1丁目10-24福岡三和ビル4階福岡YMCA内

☎ (092) 781-7410 FAX (092) 712-4223 郵便振替 福岡9-6559

発行年月 1988年10月30日 No.17

事務局長 佐藤 雄二